

▶ 目標と実績

2005年度目標に対する2004年度の実績は？

JR東日本では、2005年度を目標年度とする「環境目標」を掲げてきました。
 単年度ごとに定量的・定性的に実績を把握し、課題のある項目については、
 その原因を探ることで次年度の改善に活かしています。

環境保全活動の分類	主な活動内容	2005年度目標		
			基準値(1990年度)	
環境マネジメント	本社、支社エコロジー推進委員会による環境マネジメント 長野総合車両センターでのISO14001認証取得 など			
地球温暖化防止への取り組み	省エネルギー車両の導入 インターモーダル(パーク&ライド、レール&レンタカーなど)の推進 電力供給におけるCO ₂ の削減 など	事業活動に伴うCO ₂ 総排出量	276万t-CO ₂	
		自営火力発電所単位発電量あたりCO ₂ 排出量 省エネルギー車両比率	726g-CO ₂ /kWh	-
		単位輸送量あたり列車運転用消費エネルギー 特定フロン使用大型冷凍機台数	20.6MJ/車キロ	82台
		駅・列車ゴミのリサイクル率 総合車両センター(車両工場)廃棄物のリサイクル率 設備工事廃棄物のリサイクル率 事務用紙の再生紙利用率	-	-
		川崎火力発電所からの環境汚染物質削減 有機溶剤等の適正管理 など	自営火力発電所NO _x 排出量	994t
沿線での環境活動	新幹線・在来線の騒音対策(防音壁、ロングレール化など) トンネル内湧出水の活用 など	東北・上越新幹線の「住宅立地地域」騒音対策75dB以下	-	
環境コミュニケーション	自治体などと協力した環境保全活動 鉄道沿線からの森づくり 安達太良ふるさとの森づくり 社会環境報告書の発行、環境広告 など	毎年具体的な環境保護活動	-	
研究開発	ハイブリッド鉄道車両「NETレイン」の開発 騒音低減技術開発 など			

2005年1月に設定した2008年度目標に対する実績は、来年度以降報告していきます。

目標値	2003年度実績 ()内は実数	2004年度実績 ()内は実数	評価	参照ページ
				24～25 ページ
20%削減 (220万t-CO ₂)	20%削減 (220万t-CO ₂)	13%削減 (239万t-CO ₂)	-	30～33 ページ
30%削減 (508g-CO ₂ /kWh)	31%削減 (504g-CO ₂ /kWh)	30%削減 (510g-CO ₂ /kWh)		
80%	72%	76%		
15%削減 (17.5MJ/車キ口)	11%削減 (18.3MJ/車キ口)	13%削減 (17.9MJ/車キ口)		
85%削減 (12台)	83%削減 (14台)	84%削減 (13台)		34～36 ページ
40%	39%	43%		
75%	81%	82%		
85%	86%	91%		
100%	99%	98%		37ページ
60%削減 (402t)	66%削減 (341t)	58%削減 (417t)	-	
100% (2002年度達成目標)	100%	100%		38～39 ページ
-	15カ所 1.2万本植樹 2,400人参加	17カ所 2.5万本植樹 3,200人参加		40～41 ページ
				8～9、 31ページ など



エコロジー推進委員会副委員長
代表取締役副社長 清野 智

2005年度目標に対し、2004年度は、「駅・列車ゴミのリサイクル率」について、新たに目標を達成しました。しかしながら、新潟県中越地震で自営水力発電所が被災し停止した影響により、自営火力発電の発電量が増加したため、前年度は目標を達成していた「事業活動に伴うCO₂総排出量」「自営火力発電所のNO_x排出量」の2項目について目標を下回る結果となりました。被災した水力発電所については、2006年春の復旧をめざし、工事を進めています。

なお、省エネルギー車両の導入等の効果により、「単位輸送量あたり列車運転消費エネルギー」は引き続き改善しています。

地震の影響を除けば、2005年度目標に対する進捗は概ね順調であることから、2005年からは、さらに目標を高く設定し、グループ全体の目標も新規に加えた「2008年度達成目標」(21ページ参照)に向け、取り組みをさらに進めてまいります。

2005年度目標達成に向けた進捗度

- 達成
- 順調
- やや遅れ

事業活動に伴うCO₂総排出量と自営火力発電所のNO_x排出量については、新潟県中越地震の影響が大きいため、評価を行いませんでした。